

給ニ、イタクカクシ給コソイブセケレ、ソモ、何ナル人ニテ御坐ルゾト、アナガチニ問ケレバ、誠ニ今ハ申侍ラン、コレハソノカミ思ガケヌ縁ニアハセ給テ、思ノ外ナル御事ノ候ケル某ト申者ノムスメニテ侍ナリ、ソレニハカクトモ知セ給ハ子ドモ、母ニテ侍シモノ、ナンデハカ、ル事ニテト、ツゲシラセテ後ハ、心バカリハ御女ト思ツ、アハレ見モマイラセ見ヘモマイラセバヤト、年來思ナガラ、カ、ル御身ニハ、ヨロヅハ、カリ有テ、ムナシク年月ヲ、ヲクリ、侍リツルニ、此御病ニ、御看病ノ人モツカレテ、コトカケタルヨシ、ツタヘ承テ、御孝養ニ心ヤスクアツカヒマイラセント、思タチテナン、マイリテ候ト、ナク、カタリケレバ、マメヤカニ、志ノ程哀ニ覺テ、涙モカキアヘズ、シカルベキ親子ノチギリコソ哀ナレトテ、ダガヒニナツカシク、ヘダテナキ事ニテ、ツイニ最後マデ看病シ、心ヤスクシテヲハリニケリ、至孝ノ志コソアリガタクオボヘ侍レ、

〔新猿樂記〕九御方夫、右近衛醫師和氣明治也、毒藥之道分別、術方之計無極、看病療疾之佛也、遺針灸治之神也、知六腑五臟之脈脈探、四百四病之根源、順方治病、任術療疾、搗篋合藥、搗抹咬咀之上手也、

〔細川家記〕十三同九年慶長夏ニ至御積痛〇忠差重リ、御大切に御煩ニ付、忠利君を御家督に被成度旨、御願之通被蒙仰候、自是先御介病として、忠利君御暇賜リ、豊前へ御下向被成候、

〔徳川禁令考〕十九疾病忌服、享保二壬戌年七月廿九日

看病斷ノ儀ニ付達

看病斷之儀、父母妻子之外ハ、斷不相立候乍、然兄、弟、姉、妹、伯、叔、父、母、其外近續之者難見放體ニ、而、外に可致看病者も無之、族ハ其節相達候上之儀たるべく候、右之趣、寄々可被相達置候、

〔天保集成絲綸錄〕七十九寛政四子年七月

大目付江